

あかばたけひがし

# 赤畑東遺跡

— 山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書 —

2014.3

岩手県宮古市教育委員会



あかばたけひがし

# 赤畑東遺跡

— 山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書 —

2014.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序

本州最東端に位置する岩手県宮古市には、640箇所の遺跡が分布し、縄文時代から現代まで連綿と続く先人たちの営みが数多く残されています。市教育委員会ではこれらの遺跡を後世へ伝え残していくために周知と保護・保存を行っております。なかでも開発工事等により発掘調査された遺跡については記録として保存し、さらに出土した土器や石器などは体験学習や展示の資料として活用しております。

本発掘調査報告書は、病院新棟建設工事に伴い実施された赤畑東遺跡発掘調査の結果をまとめたものです。

今回の発掘調査によって中世と推定される竪穴住居跡が1棟検出されました。該期の遺物は確認されませんでした。隣接する赤畑遺跡において同様の竪穴住居跡が確認されています。これらは文献史料の少ない中世の様相をうかがい知ることのできる貴重な資料といえます。

今後、これらの資料を活用していくことで宮古市における中世の歴史についてさらに明らかになるものと期待いたします。


最後になりましたが、調査にあたりまして御指導、御協力いただきました関係各位に深甚なる謝意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

宮古市教育委員会

教育長 伊藤 晃二

## 例 言

1. 本書は山口病院新棟建設工事に伴う赤畑東遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は「発掘調査概要」と「本編」で構成され、発掘調査概要は主として調査報告の要旨、本編は通常の報告書である。
3. 調査主体は宮古市教育委員会(教育長 佐々木敏夫(～平成 25 年度)、伊藤晃二(平成 25 年度～))である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の長谷川・前川が担当し、その他、文化課担当職員がこれを補佐した。
4. 調査座標については、試掘トレンチにあわせ任意に設定したものである。また、図版中は調査用の局地的な座標であることを明示するためにRを冠した。断面図における水準標高は海拔標高を示す。
5. 土色及び土質の観察は『新版標準土色帖』(小山正忠、竹原秀雄編著 2001 年度版)を基準とし、図版中において土層観察表で表示した。遺物の観察は全て肉眼観察により行い、遺物観察表としてまとめている。
6. 図版中のスクリーン表示は図版中で定めない限り以下の通りである。  
遺構図版 ・  石
7. 遺構図版の縮尺率は、原則として 1/50、全体図は 1/400 とした。また、各図版のスケール上に縮尺率を明示した。遺物図版の縮尺率は、土器類は 1/3、剥片石器は 2/3、その他の石器は 1/3 とした。写真図版の縮尺率は、原則として 1/2 とした。
8. 本書に収録した調査記録及び出土資料は、宮古市教育委員会で保管している。

# 目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 表目次

発掘調査概要 .....	1
本編 .....	2
第1章 調査に至る経緯 .....	2
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査体制	
第2章 立地と環境 .....	3
第1節 宮古市の位置と遺跡の環境	
第2節 周辺の遺跡	
第3章 調査の方法 .....	7
第1節 調査方法と調査経過	
第2節 基本層序	
第4章 検出された遺構と遺物 .....	11
第1節 竪穴住居跡	
第2節 ピット	
第3節 畝状遺構	
第4節 遺構外出土遺物	
第5章 まとめ .....	19
引用・参考文献	
報告書抄録 .....	33

## 図版目次

発掘調査概要	1
写真1 中世の竪穴住居跡 完掘状況	
写真2 畝状遺構 完掘状況	
図1 赤畑東遺跡 調査区遺構配置図	
本編	2
第2章 立地と環境	
第1図 赤畑東遺跡 位置図	3
第2図 地形分類図	4
第3図 周辺の遺跡分布図	6
第3章 調査の方法	
第4図 調査区 位置図	7
第5図 調査区全体図・基本土層図	9
第4章 検出された遺構と遺物	
第6図 1号竪穴住居跡 平面図・断面図	12
第7図 1号竪穴住居跡 ピット平面図・断面図	13
第8図 ピット 平面図・断面図	14
第9図 畝状遺構 平面図・断面図	16
第10図 遺構外出土遺物	17
第5章 まとめ	
第11図 宮古市内における中世の遺構	20

## 写真図版目次

1 赤畑東遺跡 航空写真(南→)	23
2 赤畑東遺跡 遠景(南→)	23
3 試掘トレンチ掘り下げ状況(南→)	24
4 本調査 完掘状況(北→)	24
5 本調査 完掘状況(南→)	25
6 1号竪穴住居跡 検出状況(東→)	25
7 1号竪穴住居跡 完掘状況(東→)	26
8 1号竪穴住居跡 完掘状況(南→)	26
9 1号竪穴住居跡 土層堆積状況(南→)	27
10 1号竪穴住居跡 礫出土状況(南西→)	27
11 1号竪穴住居跡 焼土(南→)	27
12 1号竪穴住居跡 p1(南→)	27
13 1号竪穴住居跡 p2(南→)	27
14 1号竪穴住居跡 p3(南→)	27
15 1号竪穴住居跡 p4(南→)	27
16 1号竪穴住居跡 p5(南→)	27
17 1号竪穴住居跡 p6(南→)	28
18 1号竪穴住居跡 p7(北→)	28
19 1号竪穴住居跡 p8(北→)	28
20 1号竪穴住居跡 p9(北→)	28
21 1号竪穴住居跡 p10(北→)	28
22 1号竪穴住居跡 p11(南→)	28
23 1号竪穴住居跡 p12(南→)	28
24 1号竪穴住居跡 p13(南→)	28

25 1号竪穴住居跡 p14(南→)	29
26 P1 堆積状況(南→)	29
27 P2 堆積状況(東→)	29
28 P3 堆積状況(東→)	29
29 P4・5 堆積状況(南→)	29
30 P1～3 検出状況(南西→)	29
31 畝状遺構 検出状況(北→)	29
32 畝状遺構 土層堆積状況(北→)	29
33 畝状遺構 完掘状況(北→)	30
34 試掘トレンチ 土層堆積状況(東→)	30
35 試掘トレンチ 土層堆積状況(南西→)	30
36 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	30
37 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	30
38 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	31
39 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	31
40 試掘トレンチ 土層堆積状況(東→)	31
41 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	31
42 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	31
43 試掘トレンチ 土層堆積状況(南東→)	31
44 試掘トレンチ 土層堆積状況(東→)	31
45 試掘トレンチ 土層堆積状況(東→)	31
46 遺構外出土遺物(縄文土器・石器)	32

## 表目次

第1表 縄文土器観察表	18
第2表 石器観察表	18



## 発掘調査概要

赤畑東遺跡は宮古市山口5丁目地内に所在し、閉伊川の支流である山口川に面した標高約40mの山裾緩斜面に立地しています。発掘調査は病院新棟建設工事に伴い実施されたもので、試掘調査（どのような遺構・遺物があるのかを調べる調査）の結果、**中世の竪穴住居跡**が検出されたため**本調査**（検出された遺構や遺物を精査する調査）を行いました。

検出された遺構は、**中世の竪穴住居跡**1棟、**ピット**5基、**畝状遺構**1基で、**縄文土器・石器**などが出土しました。

中世の竪穴住居跡は1棟のみ検出されましたが、隣接する赤畑遺跡からは類似した形態の住居跡が調査されており、中世の宮古を知る貴重な資料となります。

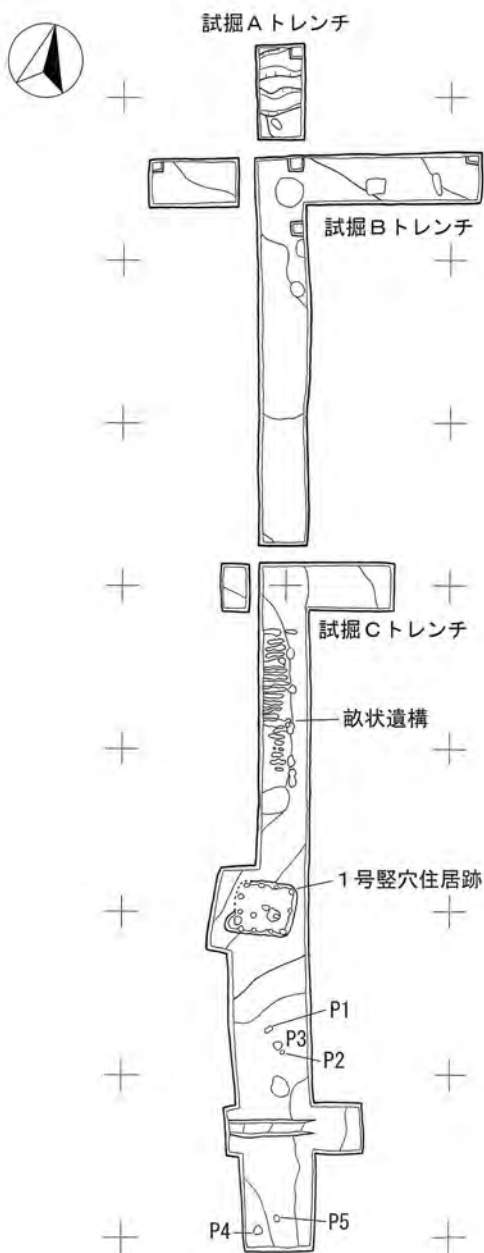


写真1 中世の竪穴住居跡 完掘状況（南→）



写真2 畝状遺構 完掘状況（北→）

図1 赤畑東遺跡 調査区遺構配置図

# 本編

## 第1章 調査に至る経緯

### 第1節 調査に至る経緯

赤畑東遺跡の発掘調査は、社団医療法人新和会による山口病院新棟建設工事に伴い実施されたものである。赤畑東遺跡は、岩手県宮古市山口5丁目地内に所在し、現況は畑地及び草地である。埋蔵文化財の取扱いについての協議を社団医療法人新和会と市教育委員会で平成19年から随時行ってきたが、平成24年2月2日の協議で平成24年度に試掘調査を行うことが決定した。

平成24年4月2日付けで社団医療法人新和会理事長より文化財保護法第93条第1項の規定による発掘届出があり、市教育委員会では平成24年4月2日付け教文第1号で岩手県教育委員会に進達している。それを受け岩手県教育委員会では平成24年4月4日付け教生第3-4号で「埋蔵文化財の発掘届出について」を通知し、市教育委員会では平成24年4月12日付け教文第27号で社団医療法人新和会理事長に伝達している。

試掘調査は平成24年4月13日から開始し、5月25日まで実施した。試掘調査の結果、竪穴住居跡やピット、畝状遺構が検出されたため、平成24年5月25日に社団医療法人新和会と協議を行い、平成24年6月7日付けで本調査に係る「埋蔵文化財の取り扱いに関する協定書」を市教育委員会と社団医療法人新和会との間で取り交わし、それに基づき両者は「埋蔵文化財調査委託契約」を締結した。本調査対象面積は約215㎡で、平成24年6月11日から6月21日まで実施している。整理作業及び報告書作成は平成25年2月1日から開始し、平成25年2月26日まで行っている。

なお、市教育委員会では第99条第1項の規定により平成24年6月20日付け教文第220号で岩手県教育委員会に報告している。本調査終了後、発掘調査の概要について平成24年7月12日付け教文第283号で社団医療法人新和会に報告している。

### 第2節 調査体制

(平成24年度)

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	佐々木敏夫
調査総括	竹下将男	宮古市教育委員会文化課長	
調査員	高橋憲太郎	〃	文化課副主幹
	鎌田祐二	〃	文化課主査
	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員(本調査・報告書担当)
	阿部豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	江口邦泰	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員
	前川友宏	〃	文化課埋蔵文化財調査員(試掘調査・報告書担当)
	赤沼みちる	〃	文化課埋蔵文化財調査員

<発掘調査作業員・整理作業員>

上澤正嗣 金澤勝 越田真理子 坂本晃 佐々木亨 佐藤重信 豊島敏男 野崎秀人 三浦功  
山根保行

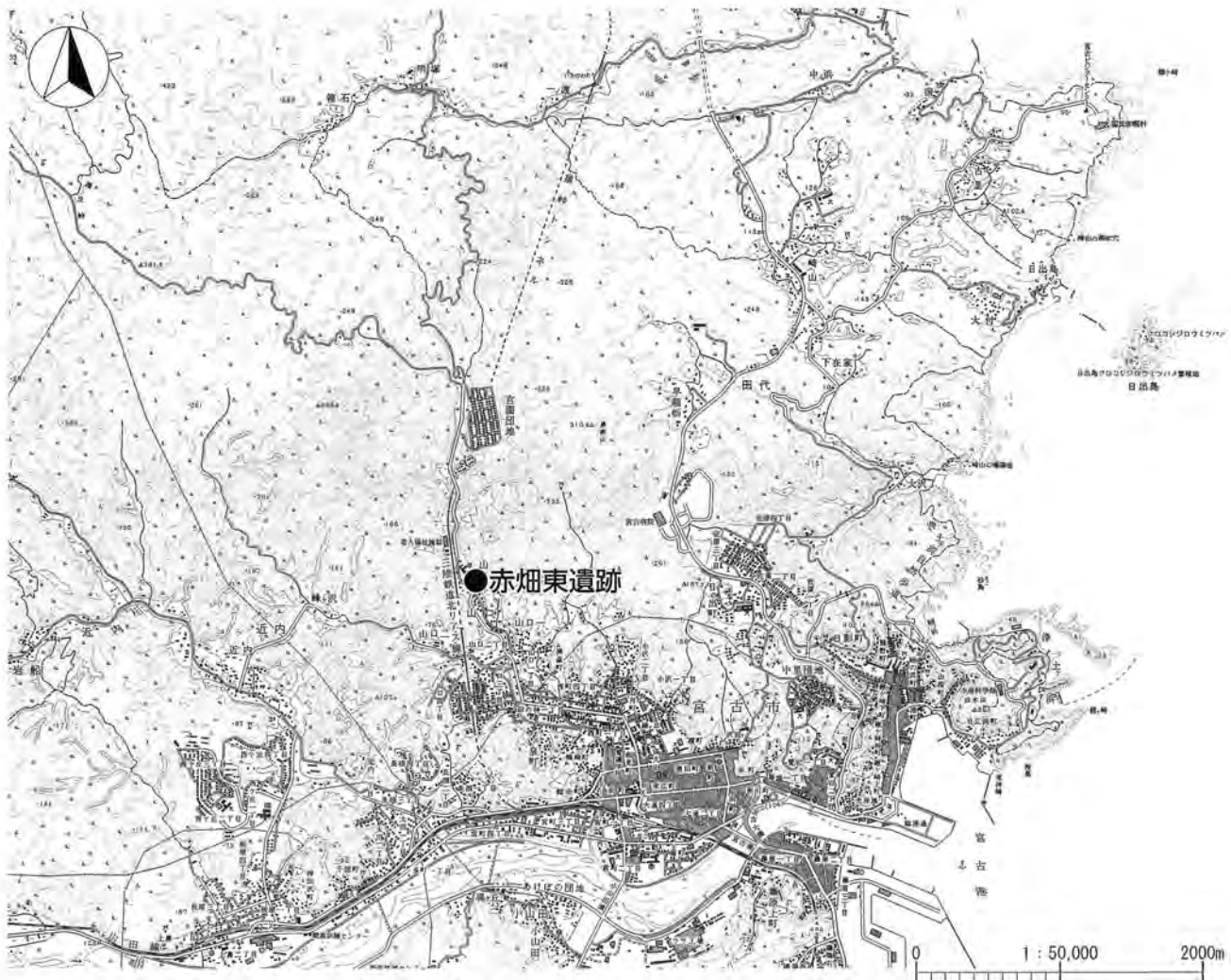
## 第2章 立地と環境

### 第1節 宮古市の位置と遺跡の環境

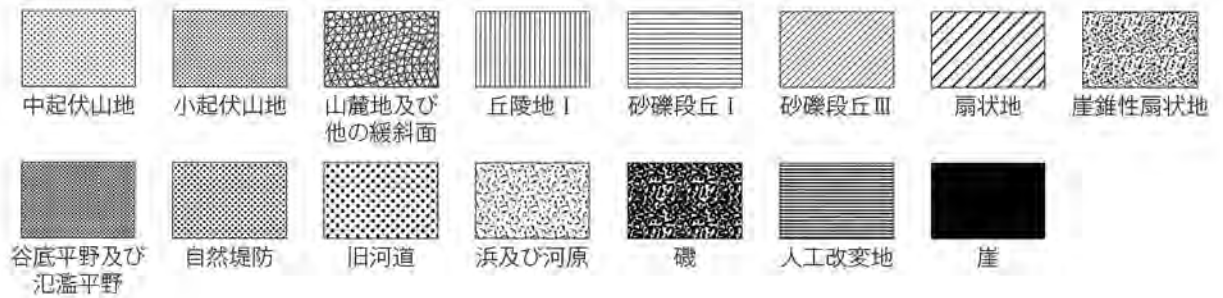
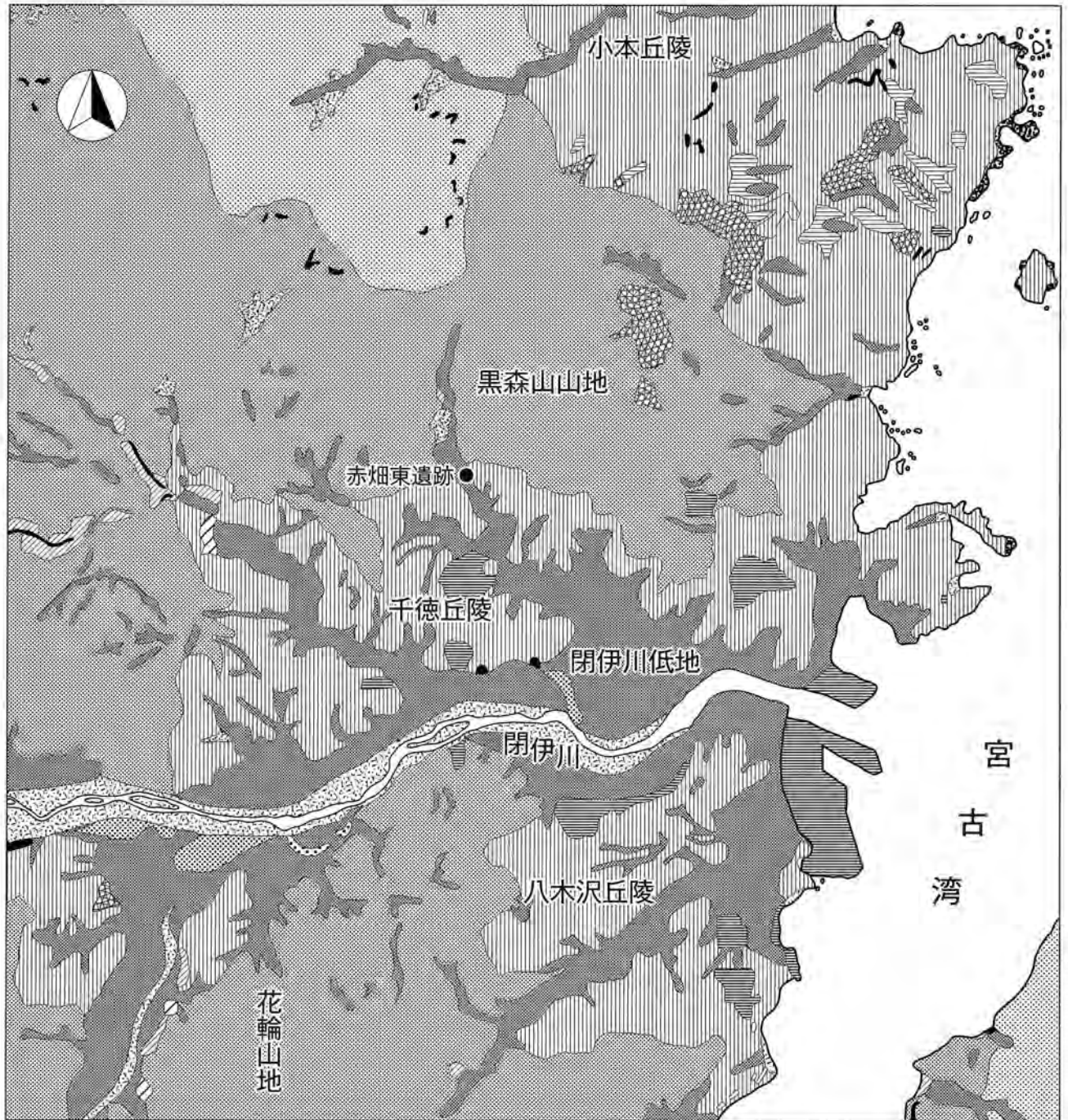
岩手県宮古市は岩手県沿岸のほぼ中央に位置し、西は盛岡市、北は岩泉町、南は花巻市・遠野市・山田町と隣接し、東は太平洋に面している。市域の総面積は約 1,259.89km<sup>2</sup>、人口約 58,000 人の漁業と観光の都市である。平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けたが、様々な支援を受けながら、現在復興事業が進められている。

市域の西側は標高 1,917 m の早池峰山を最高峰とする北上山地の山々が連なる一方、東側は太平洋を望み、特に北東方向に突き出るような形をもつ重茂半島の鮭ヶ崎は本州最東端となっている。陸中海岸国立公園に指定されている宮古市周辺の海岸は国指定名勝「浄土ヶ浜」や国指定天然記念物「崎山の蝟燭岩」「崎山の潮吹穴」などがある岩手県随一の景勝地であり、また西側の山間部は早池峰国立公園に指定されており、自然豊かな景観をみることができる。

赤畑東遺跡は岩手県宮古市山口 5 丁目地内に所在する。閉伊川の支流である山口川が遺跡の西約 50 m を南流し、その山口川により形成された山麓裾部の緩斜面に遺跡は立地している。標高は約 40 m で、現況は畑地として一部利用されていた。調査地点の東側は県道工事により緩斜面が分断されている。



第1図 赤畑東遺跡 位置図



第2図 地形分類図

## 第2節 周辺の遺跡

赤畑東遺跡の周辺には、隣接する赤畑遺跡のほか、高根遺跡、牛沢遺跡、小平Ⅰ遺跡、山口館跡、天神山遺跡などの多くの遺跡が分布し、南流する山口川の山裾斜面に立地している。

赤畑遺跡は、昭和62年・昭和63年・平成7年に県道工事に伴い発掘調査が行われ、壁際に柱穴が等間隔で並ぶ中世の竪穴住居跡が2棟検出されている。その他、市内で初めて後北式土器が出土したことで知られている。

高根遺跡は昭和63年・平成3年に老人保健施設と社会福祉施設建設に伴い発掘調査が行われ、縄文時代中期初頭から中期前半の竪穴住居跡や貯蔵穴、墓坑などが検出されている。縄文土器や石器も多く出土していることから、縄文時代中期初頭から中期前半の集落跡であると考えられている。遺物では、斧状土製品や環状の土製品、黒曜石製の石器の出土が特筆される。

小平Ⅰ遺跡は平成8年に県道工事のため発掘調査が行われ、縄文時代中期中葉から末葉の複式炉を有する竪穴住居跡11棟が検出されている。縄文土器のほか、玦状耳飾りやキノコ状土製品などの遺物も出土し、縄文時代中期後半の集落跡であることが確認されている。

牛沢遺跡は平成17年に倉庫建築に伴い発掘調査が行われ、縄文時代中期末葉の複式炉を有する竪穴住居跡が6棟検出されている。遺構に伴う多数の縄文土器や石器が出土し、特に中期末葉の大木9式期の資料が多い。竪穴住居跡内で確認された複式炉とフラスコ状土坑が重複する特徴的な検出例も確認されている。

山口館跡は平成8年から北部環状線道路工事に伴い断続的に発掘調査が行われ、古代の竪穴住居跡が16棟、竪穴状遺構が1棟、中世の竪穴住居跡が2棟、土坑14基が検出されている。特に第14号竪穴住居跡からは鐘鈴、三鈷鏡、錫杖頭と呼ばれる密教法具が出土し、黒森山との関連が示唆されている。また、近年の調査では、中世の館跡に係る堀跡、竪穴建物跡、溝跡、工房跡、墓跡などが検出され、戦国時代前後の城館遺跡の様相が明らかになってきている。

この他にも天神山遺跡や黒森町Ⅰ遺跡などの縄文時代から近世までの遺跡が濃密に確認され、山口川流域における継続的な先人たちの営みをみることができる。

### 参考文献

- 宮古市教育委員会 1989 『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』
- 宮古市教育委員会 1992 『黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』
- 宮古市教育委員会 1992 『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』
- 宮古市教育委員会 1998 『赤畑・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』
- 宮古市教育委員会 2001 『宮古市の遺跡発掘史』第12回ふるさと歴史展図録
- 宮古市教育委員会 2002 『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』
- 宮古市教育委員会 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査－市内遺跡発掘調査報告書7－』
- 宮古市教育委員会 2007 『山口館跡－市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『赤畑遺跡』岩手県埋蔵文化財報告書第142集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『小平Ⅰ遺跡』岩手県埋蔵文化財報告書第299集



番号	遺跡名	主な時代	遺跡の概要
1	赤畑東遺跡	縄文、近世	散布地
2	赤畑遺跡	縄文、近世	集落跡
3	牛沢遺跡	縄文（中期～後期）	集落跡
4	小平Ⅰ遺跡	縄文（中期～後期）	集落跡
5	高根遺跡	縄文（中期）	集落跡
6	山口館跡	古代（奈良・平安）、中世（戦国）	集落跡（古代）、城館遺跡
7	天神山遺跡	縄文、古代、弥生	散布地
8	孤崎遺跡	縄文、弥生（前期）、古代（奈良）	集落跡
9	青猿Ⅰ遺跡	縄文、古代（平安）	製鉄炉跡（古代）
10	長根Ⅰ遺跡	縄文、弥生（後期）、古代（奈良）	古墳群
11	黒森町Ⅰ遺跡	近世	屋敷跡、鑄造遺跡
12	拝殿峠遺跡	縄文	集落跡

第3図 周辺の遺跡分布図

## 第3章 調査の方法

### 第1節 調査方法と調査経過

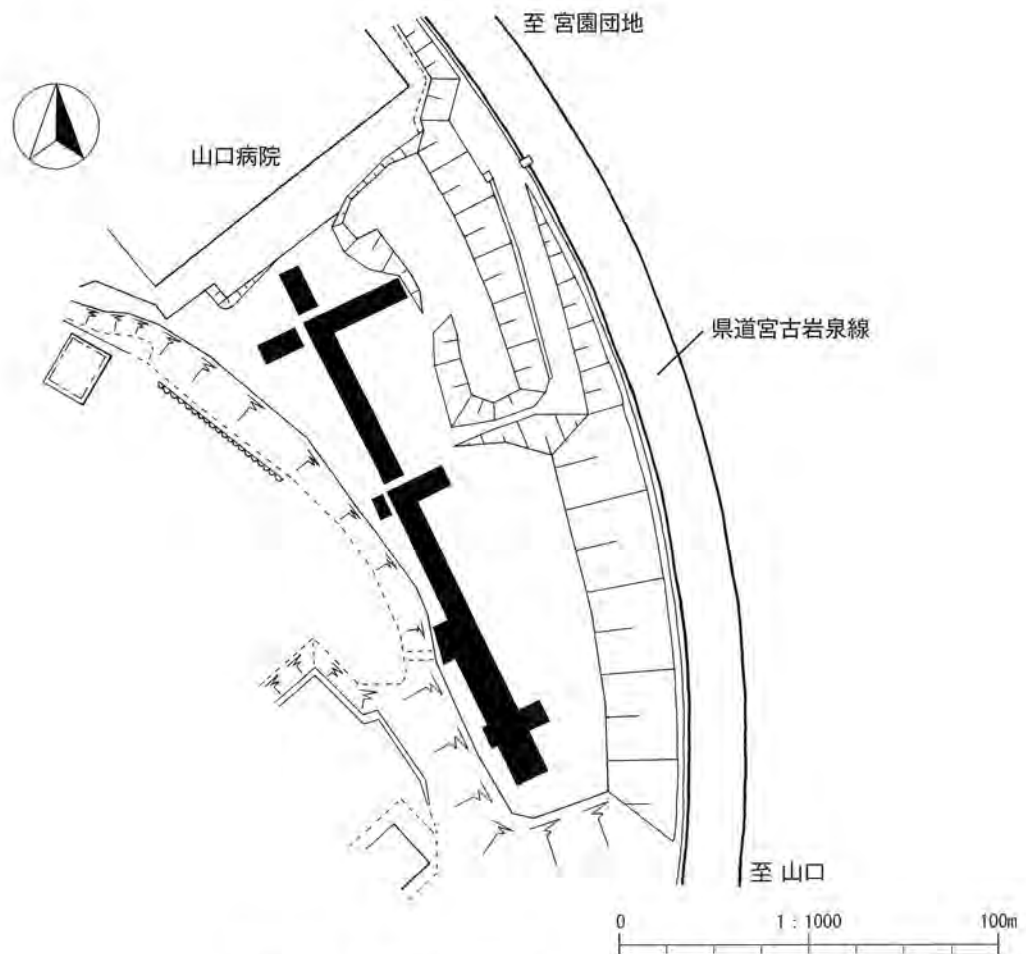
#### 実測・写真撮影・土層注記

遺構平面図及び遺構断面図の縮尺は1/20を基本とした。写真撮影は35mmの一眼レフカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、カラーフィルムの3種類を用いた。さらに参考としてデジタルカメラも併用した。土層注記は「新版標準土色帖」を用いて肉眼による観察を行った。観察項目は色調・土性・しまり・粘性・混入物などである。

#### 整理の方法

発掘調査終了後、遺構実測図及び全体図は、平面図と断面図相互の整合性についてチェックし第2原図の作成を行い、さらにトレースを行った。撮影した写真は現場で記録した写真台帳を基に白黒フィルムはネガアルバムに、カラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、それぞれ写真1枚ごとに番号を付した。

出土した遺物は現場での取上げ後、埋蔵文化財調査室で水洗いを行い、袋ごとに番号を付した。それを基に遺物台帳を作成し、整理作業の基本台帳とした。袋内における遺物の接合後、ホワイトカラーによる注記を行った。



第4図 調査区 位置図

本報告書に掲載されている遺物は、整理作業の中で設定した基準に基づき選別したものである。その選別の基準は以下のとおりである。

a. 土器類

縄文土器の総数は、破片数 209 点。小破片が大半を占めるが、その中で概ね破片の大きさが 3 cm 以上のものを抽出し図化した。図化した遺物は計 12 点である。

b. 石器類

石器類は 6 点、重量合計 125.9 g 出土し、全点について図化した。

c. 鉄滓

鉄滓は遺構外から出土している。小片であるため図化は行っていない。

## 調査経過

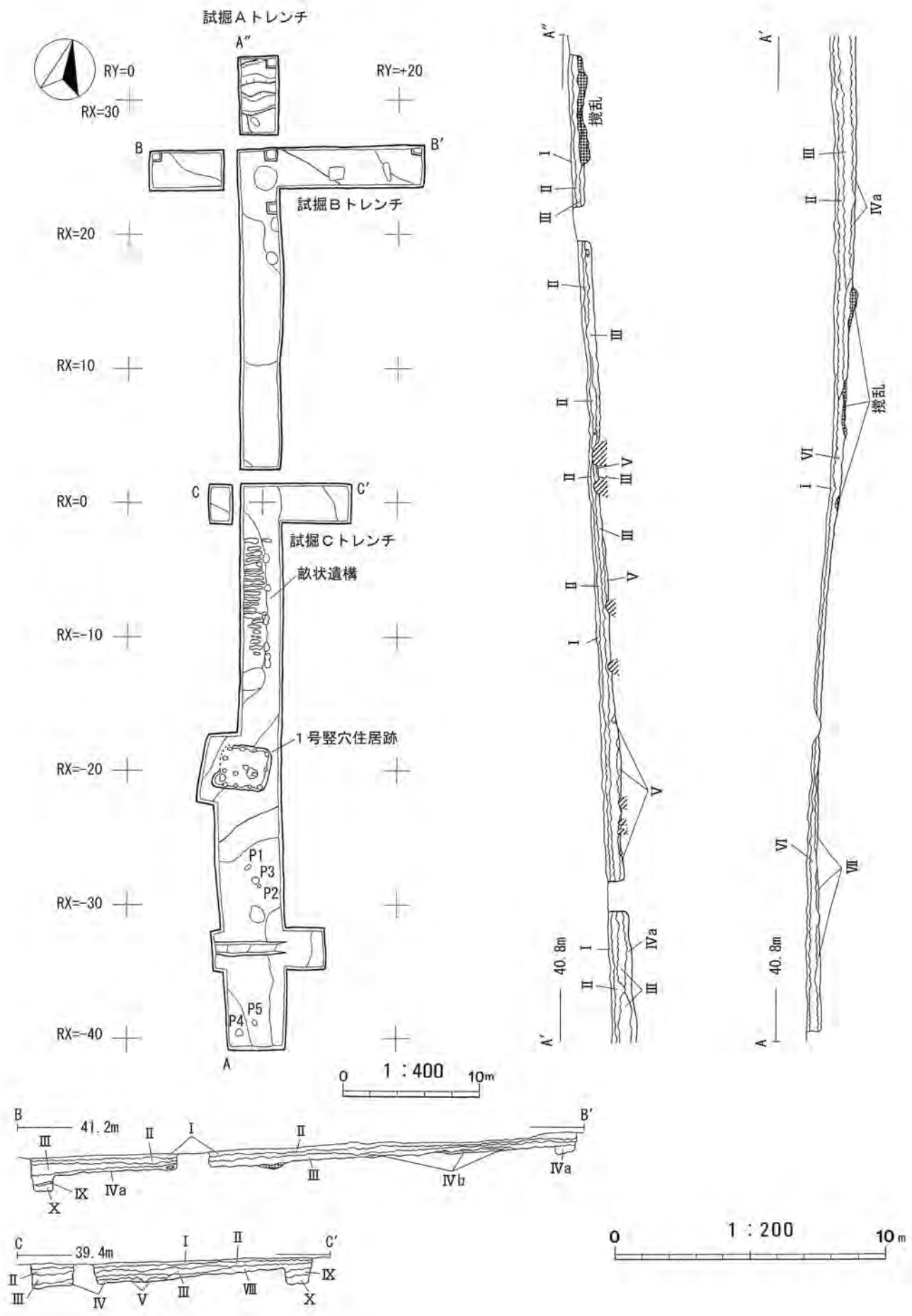
### 試掘調査

- 4 月 13 日 試掘調査開始。立木伐採など調査環境を整備した。
- 4 月 17 日 試掘トレンチを設定した。
- 4 月 18 日 試掘トレンチ端部において土層確認のために坪掘りを行った。
- 4 月 20 日 C・D トレンチの掘り下げを開始した。
- 4 月 24 日 A トレンチの掘り下げを開始した。
- 4 月 26 日 重機でトレンチ表土の掘り下げを行った。(1 日のみ稼働)
- 4 月 27 日 人力によるトレンチ掘り下げを再開した。
- 5 月 2 日 A・C トレンチの遺構検出作業を行った。
- 5 月 16 日 試掘トレンチの断面図を作成した。
- 5 月 17 日 試掘トレンチの平面図作成を開始した。
- 5 月 25 日 機材を撤収し、試掘調査を終了した。

### 本調査

- 6 月 11 日 本調査の調査区を設定し、調査環境を整備した。
- 6 月 12 日 1 号竪穴住居跡の精査を開始した。畝状遺構の検出状況写真を撮影し、掘り下げを開始した。
- 6 月 13 日 調査区の基本土層断面図を作成した。
- 6 月 14 日 畝状遺構の完掘状況写真を撮影し、平面図を作成した。
- 6 月 15 日 1 号竪穴住居跡内検出の柱穴断面図を作成した。
- 6 月 18 日 1 号竪穴住居跡の平面図を作成した。調査区全体図を作成した。
- 6 月 19 日 C トレンチ壁面に設定した深掘トレンチの掘り下げを開始した。
- 6 月 21 日 調査区全景写真を撮影した。機材を撤収し、本調査を終了した。





第5図 調査区全体図・基本土層図

## 第2節 基本層序

調査区内堆積土の土層観察は、試掘調査時に設定したA～Cトレンチを基に確認した。Aトレンチは南北方向に長さ約73 m、幅約3 mのトレンチで、調査区内の南北方向の堆積状況を確認することができる。Bトレンチは調査区北部においてAトレンチと直交するように設定され、東西方向に長さ約20 m、幅約3 mである。調査区北部における東西方向の土層堆積状況を確認した。Cトレンチは調査区中央部において、Aトレンチと直交するように設定され、東西方向に長さ約12 m、幅約3 mである。調査区中央部における東西方向の土層堆積状況を確認した。

- I層 : 基本土 10 Y R 3/1 黒褐色壤土、混入土 10 Y R 2/1 黒色埴壤土粉状 10%、軟質、粘性中。表土層で調査区全域に堆積している。炭化物が含まれる。
- II層 : 基本土 10 Y R 2/2 黒褐色砂壤土、混入土 10 Y R 3/2 黒褐色シルト質壤土粉状 20%、やや軟質、粘性少～中。
- III層 : 基本土 10 Y R 3/2 黒褐色壤土、混入土 10 Y R 2/2 黒褐色シルト質壤土粉状 5%、やや軟質、粘性少、風化花崗岩粒多量に含まれる。
- IV a層 : 基本土 10 Y R 2/1 黒色埴壤土、混入土 10 Y R 2/3 黒褐色シルト質壤土粉状 3%、やや軟質、粘性中。
- IV b層 : 基本土 10 Y R 3/4 暗褐色埴壤土、混入土 10 Y R 5/4 にぶい黄褐色埴壤土 5%層状、やや硬質。中礫火山灰と考えられる火山灰ブロックが混入している。
- V層 : 基本土 10 Y R 3/3 暗褐色砂土、混入土 10 Y R 3/4 暗褐色砂壤土粉状 20%、軟質、粘性少、角礫含まれる。
- VI層 : 基本土 10 Y R 3/1 黒褐色壤土、混入土 10 Y R 2/2 黒褐色シルト質壤土 10%層状、やや硬質、粘性中、風化花崗岩粒少量含まれる。
- VII層 : 基本土 10 Y R 2/1 黒色埴壤土、混入土 10 Y R 3/1 黒褐色壤土 3%、やや硬質、粘性中。
- VIII層 : 基本土 10 Y R 2/1 黒色埴壤土、混入土 10 Y R 3/1 黒褐色埴壤土粉状 1%、やや軟質、粘性中。調査区中央部のCトレンチ東部に堆積している。
- IX層 : 基本土 10 Y R 3/1 黒褐色埴壤土、混入土 10 Y R 2/2 黒褐色埴壤土粉状 2%、やや軟質、粘性少～中。調査区中央部のCトレンチ坪掘で堆積が確認され、土器等の遺物の出土はない。
- X層 : 基本土 10 Y R 3/2 黒褐色埴壤土、混入土 10 Y R 3/2 黒褐色埴壤土粉状 5%、やや軟質、粘性少～中。調査区中央部のCトレンチ坪掘で堆積が確認され、土器等の遺物の出土はない。

## 第4章 検出された遺構と遺物

### 第1節 竪穴住居跡

**竪穴住居跡**は調査区の南部において1棟検出された。竪穴住居跡の西側は後世の掘削により削平され壁の立ち上がりは明確ではなかったが、柱穴などの残存状況は良い。

#### 1号竪穴住居跡（第6・7図、写真図版6～25）

1号竪穴住居跡は調査区南部で検出され、**遺構検出面**は地山面である。他の遺構との重複関係は確認されなかった。

**平面形**はほぼ正方形で、規模は南北方向の辺3.22m、東西方向の辺3.62mを測る。南西の角には丸みを帯びた張出し部分が確認され、張出し部と東壁の立ち上がりまでは約3.94mを測る。遺構検出面からの深さは最大で約37cmで、西壁の立ち上がりは後世の掘削により確認されなかった。

**堆積土**は1層～11層に細別され、2・3・6～9層は壁際に堆積している層である。1・4・5層は竪穴住居跡の全域に堆積し、4層は黒色を呈するが、5層はやや砂質を呈する黒褐色土となっている。

**ピット**は床面から計14基検出されている。壁際に沿って構築され、北・東・南壁では周溝と重複している。北壁において4基、東壁では3基、南壁では4基、西壁では4基確認されている。規模は直径43cm～23cm、深さは65cm～32cmを測り、平面形は不整な円形が多い。p3・4・8・9・10・11・13・14では柱痕跡が確認された。p14は床面の中央部で確認されている。p5・6は床面南西部の柱穴（p4・7・8・14）の間で検出されている。柱穴と重複していないため、住居使用時に構築されていたと推測されるが、床面からの深さは約4～8cmと浅い。また、p6の2層中からは多量の炭化物が出土している。

床面中央部のp14の東側からは**焼土**が確認されている。焼土上面には層厚約5cmの炭化物や焼土塊の混入した層が堆積している。焼土面は硬くしまりがある。

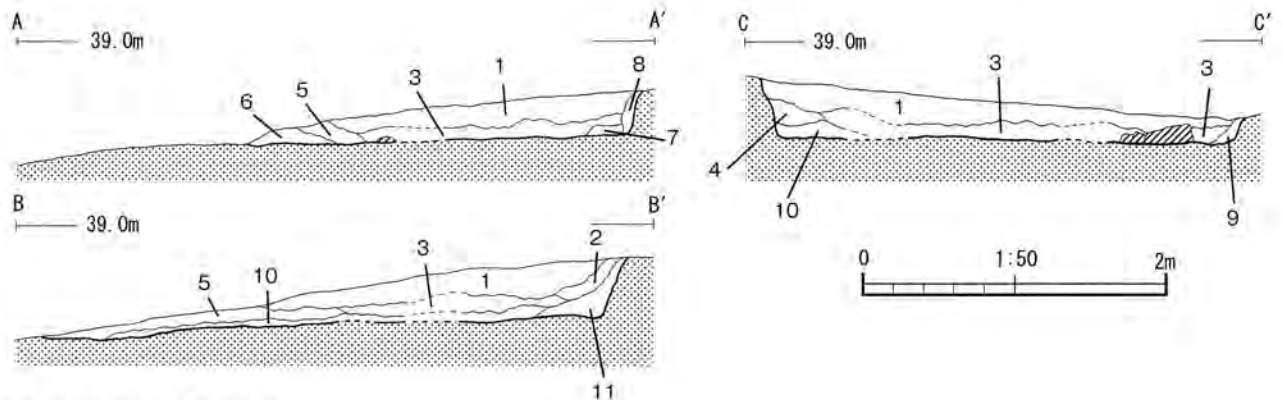
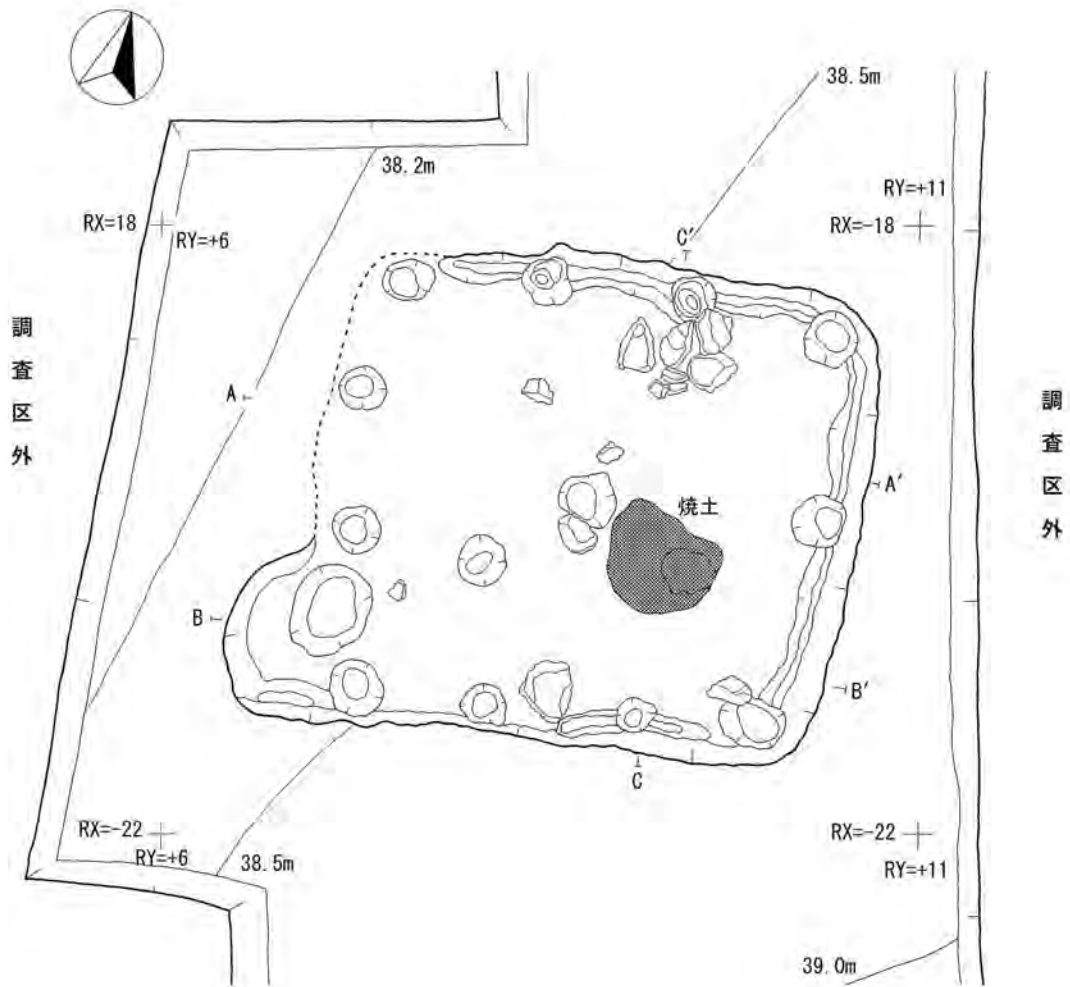
**周溝**は北壁・東壁と南壁の一部で確認されている。幅は約10cmで、深さは4cm～5cmを測る。堆積土は1層のみである。

**出土遺物**は縄文土器と鉄滓が1層中から出土しているが、小片であるため図示できなかった。周辺の基本土層中からも同様の遺物が出土していることから埋土に混入したものと考えられる。

遺物から本遺構の年代を特定することはできなかったが、隣接する赤畑遺跡で検出されたような壁際に柱穴が巡る形態などから、**所属時期**は中世と考えられる。

### 第2節 ピット

**ピット**は合計5基確認されている。互いに重複関係はなく、また調査区内における分布状況にも特に偏りはみられなかった。

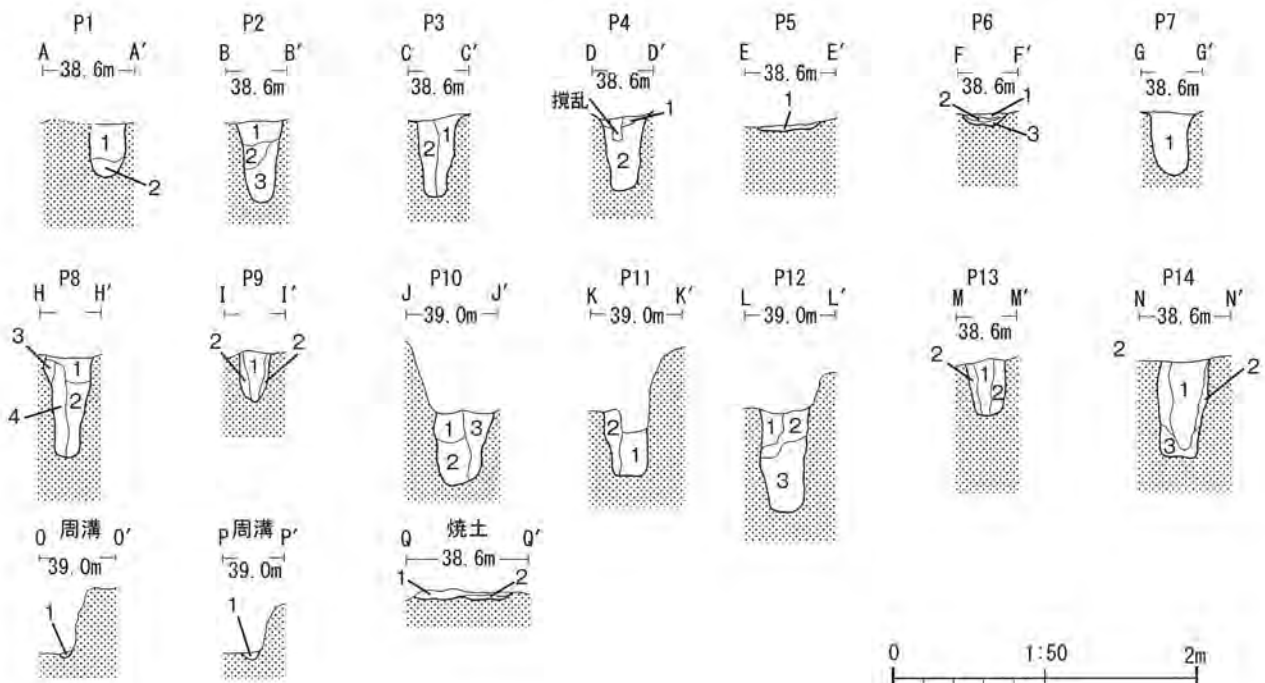
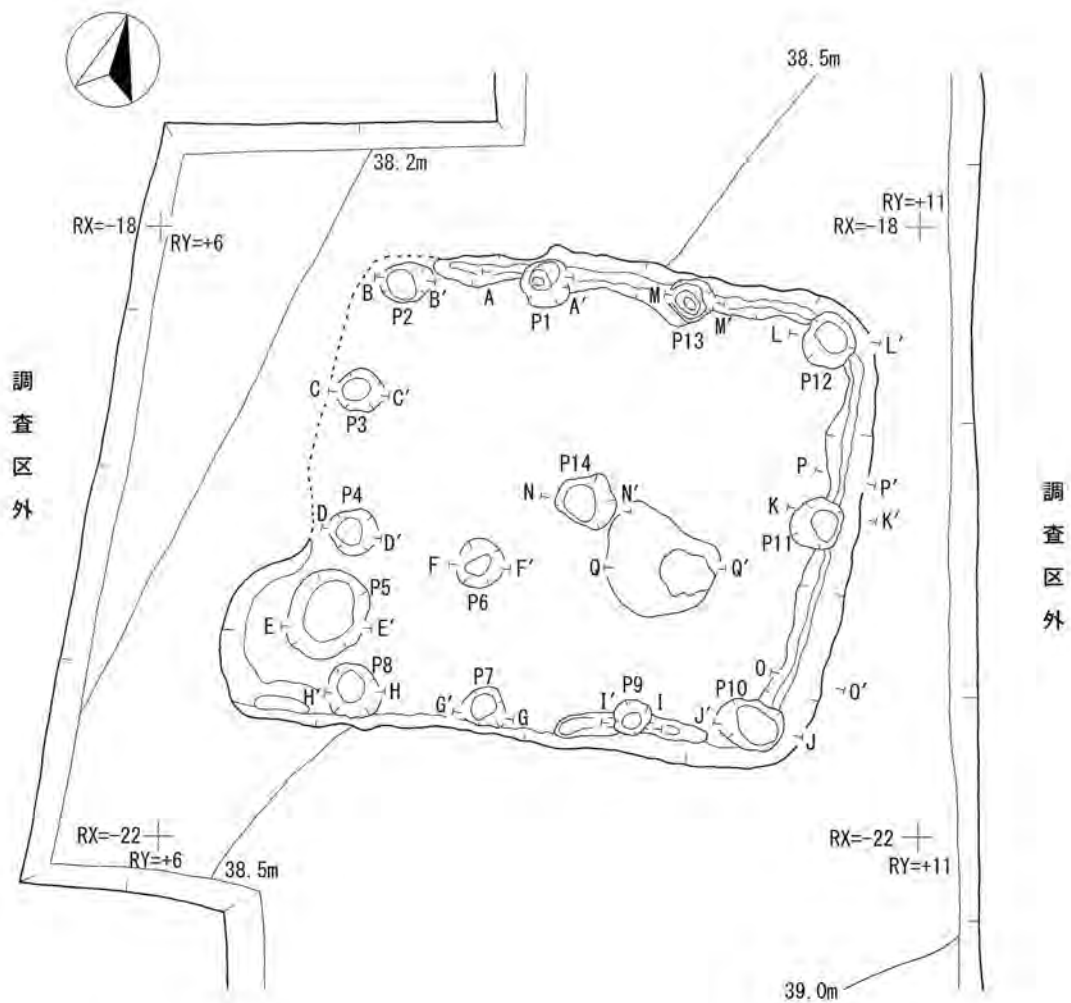


1号竖穴住居跡 土層観察表

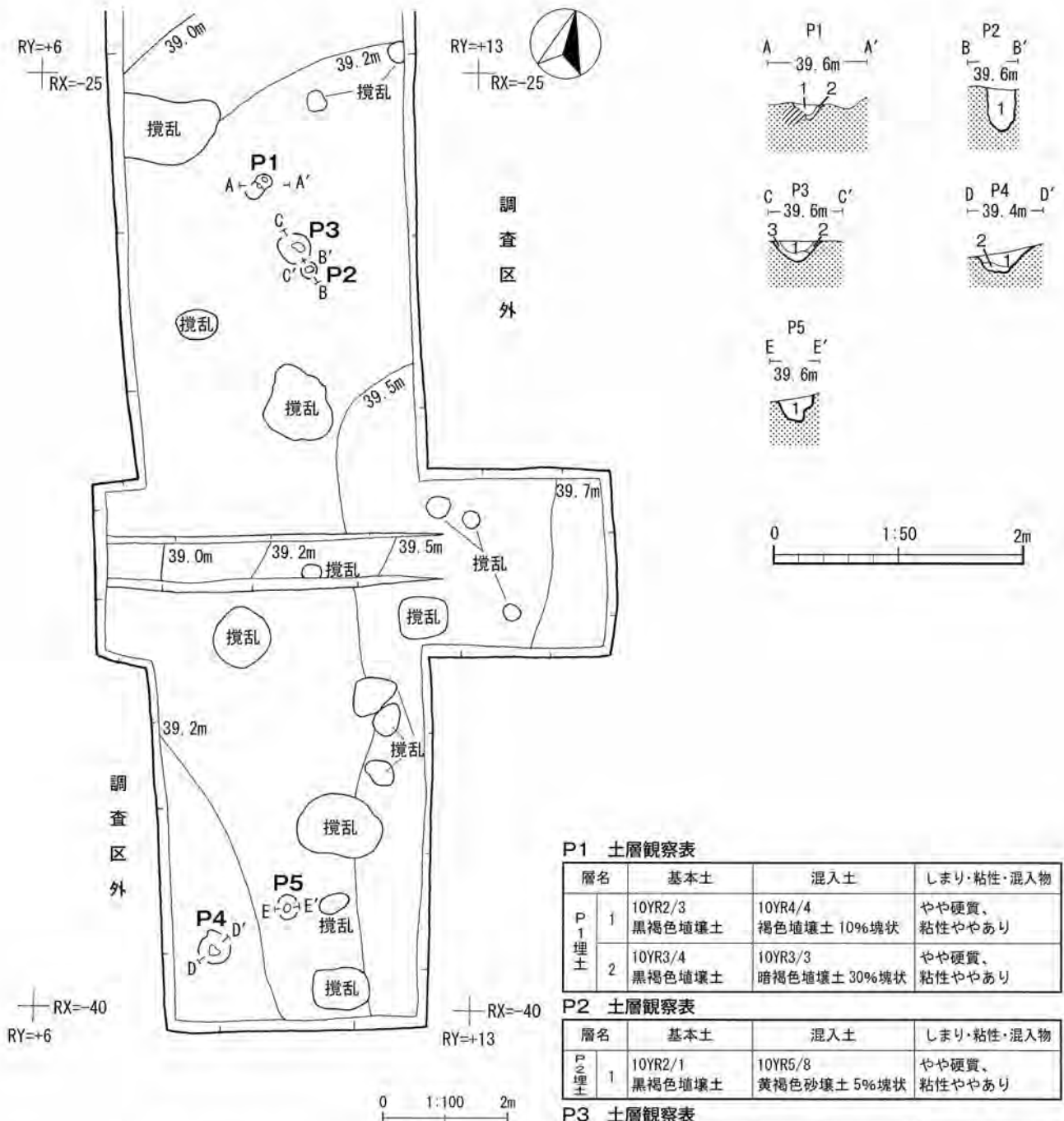
層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1号竖穴埋土	1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 30%塊状	やや軟質、 粘性ややあり
	2 10YR2/1 黒色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 20%塊状	やや軟質、 粘性ややあり
	3 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	4 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	5 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	6 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土 10%塊状	やや硬質、 粘性ややあり

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1号竖穴埋土	7 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 30%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	8 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 40%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	9 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	10 10YR2/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 30%塊状	やや硬質、粘性ややあり 炭化物・焼土混入
	11 10YR4/6 褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 20%塊状	やや硬質、 粘性ややあり

第6図 1号竖穴住居跡 平面図・断面図



第7図 1号竪穴住居跡 ピット平面図・断面図



第8図 ピット 平面図・断面図

**P 1** (第8図、写真図版 26・30)

P 1 は調査区南部で検出され、遺構検出面は地山面である。重複する遺構はない。

平面形は南北方向に長軸をもつ不整な楕円形で、規模は長径 50cm、短径 20cm、検出面から底面までの深さは 30cm を測る。堆積土は 2 層に分けられ、2 層には地山のブロック塊が斑状に混入している。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明である。

**P1 土層観察表**

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 1 埋土	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、 粘性ややあり
	10YR3/4 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 30%塊状	やや硬質、 粘性ややあり

**P2 土層観察表**

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 2 埋土	10YR2/1 黒褐色埴壤土	10YR5/8 黄褐色砂壤土 5%塊状	やや硬質、 粘性ややあり

**P3 土層観察表**

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 3 埋土	10YR2/1 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土 5%塊状	硬質、粘性あり
	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり
	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 20%塊状	硬質、粘性あり

**P4 土層観察表**

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 4 埋土	10YR3/3 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 20%塊状	硬質、粘性あり
	10YR4/3 にぶい黄褐色埴壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土 30%塊状	硬質、粘性あり

**P5 土層観察表**

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
P 5 埋土	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%塊状	硬質、粘性あり

**P 2** (第 8 図、写真図版 27・30)

P 2 は調査区南部で検出され、**遺構検出面**は地山面である。重複する遺構はない。

**平面形**は円形で、**規模**は直径 28cm、検出面から底面までの深さは 80cm を測る。**堆積土**は 1 層で、柱穴に類似した形態をしている。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明である。

**P 3** (第 8 図、写真図版 28・30)

P 3 は調査区南部で検出され、**遺構検出面**は地山面である。重複する遺構はない。

**平面形**は不整な円形で、**規模**は直径 50cm、検出面から底面までの深さは 40cm を測る。**堆積土**は 3 層に分けられ、1 層は黒色を呈する。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明である。

**P 4** (第 8 図、写真図版 29)

P 4 は調査区南端で検出され、**遺構検出面**は地山面である。重複する遺構はない。

**平面形**は不整な円形で、**規模**は長径 48cm、短径 47cm、検出面から底面までの深さは 38cm を測る。**堆積土**は 2 層に分けられ、2 層はやや地山に近い土色を呈する。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明である。

**P 5** (第 8 図、写真図版 29)

P 5 は調査区南端で検出され、**遺構検出面**は地山面である。重複する遺構はない。

**平面形**は楕円形で、**規模**は長径 40cm、短径 32cm、検出面から底面までの深さは 48cm を測る。**堆積土**は 1 層で、地山のブロック塊が斑状に混入している。遺物が出土していないため、詳細な年代については不明である。

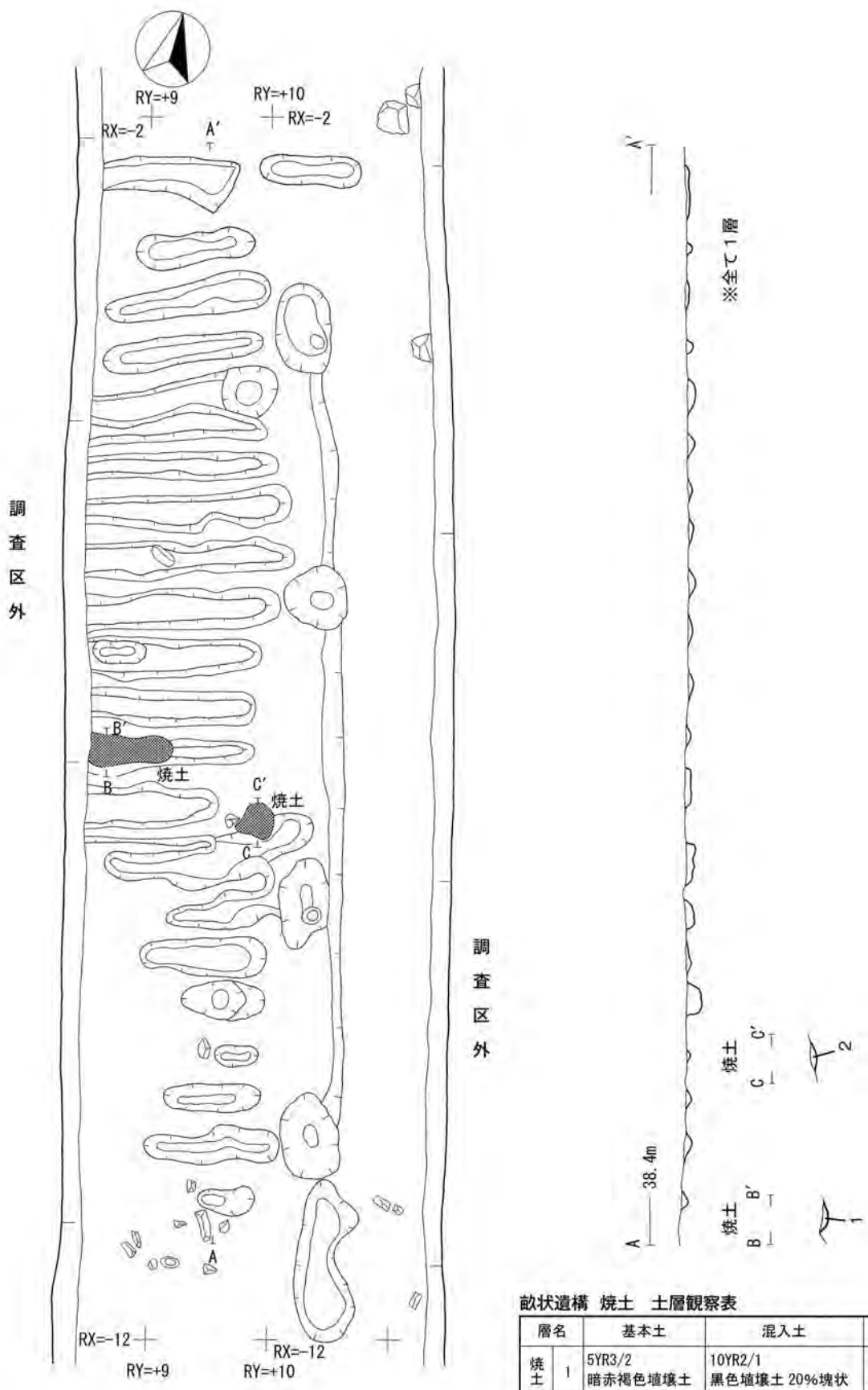
### 第 3 節 畝状遺構

#### 畝状遺構 (第 9 図、写真図版 31～33)

**畝状遺構**は調査区中央部で検出され、**遺構検出面**は基本土層Ⅳ層上面である。

東西方向の畝が 21 条検出され、その東側には南北方向に段状の立ち上がりが確認されている。深さは 2cm～12cm とばらつきがみられるが、掘り込みの壁の立ち上がりは緩やかである。南北方向の段状の立ち上がりには 2m～2.2m 間隔でピット状の遺構が計 4 基重複している。ピット状の遺構の方が新しく、平面形は南北に楕円形を呈し、長径約 70cm、短径約 50cm を測る。さらに、畝状遺構中央部の畝上部で焼土の分布する範囲が 2 箇所確認されている。焼土層の層厚は浅く、掘り込みの深さは約 5cm を測る。

遺構の所属時期を判断する遺物はなく時期は不明であるが、盛土層である基本土層Ⅲ層の下層で確認されていることから、盛土以前の遺構と考えられる。

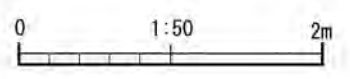


畝状遺構 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
1号 竖穴 埋土	10YR3/2 黒褐色壤土	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土 5%粉状	やや硬質、粘性ややあり 風化花崗岩粒多量

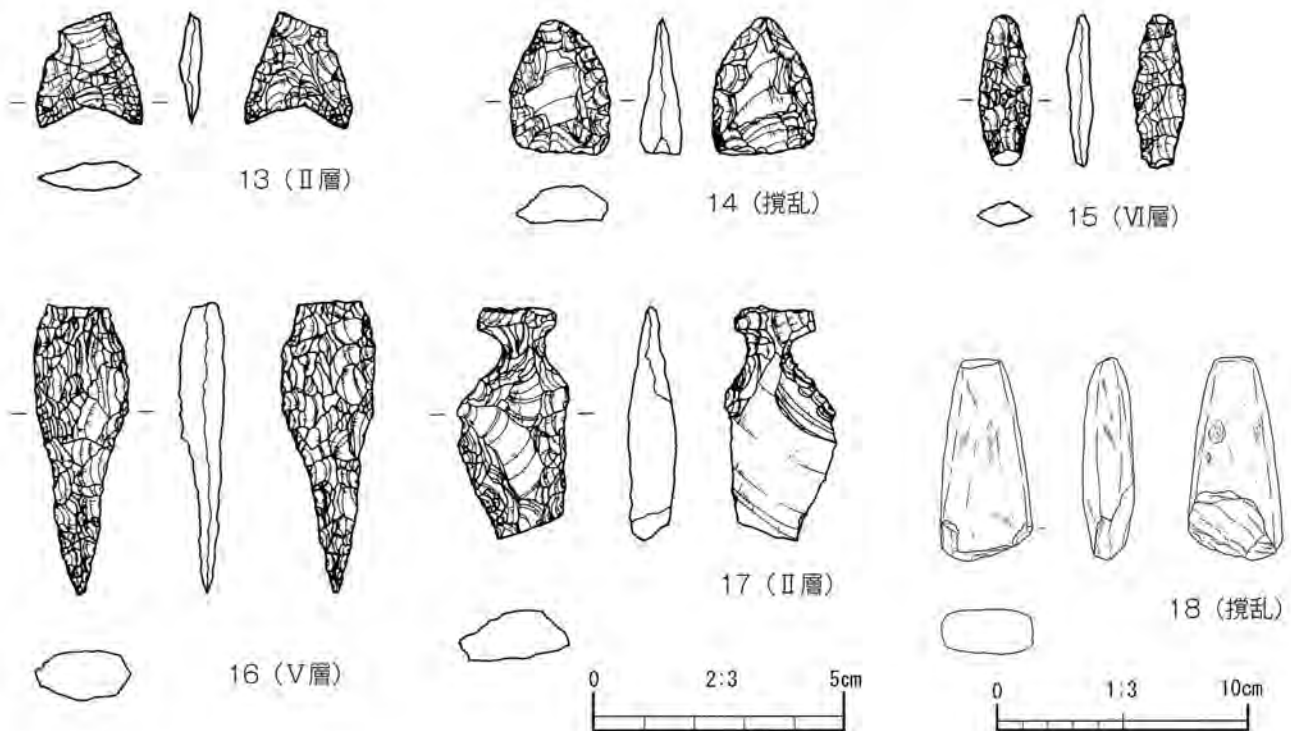
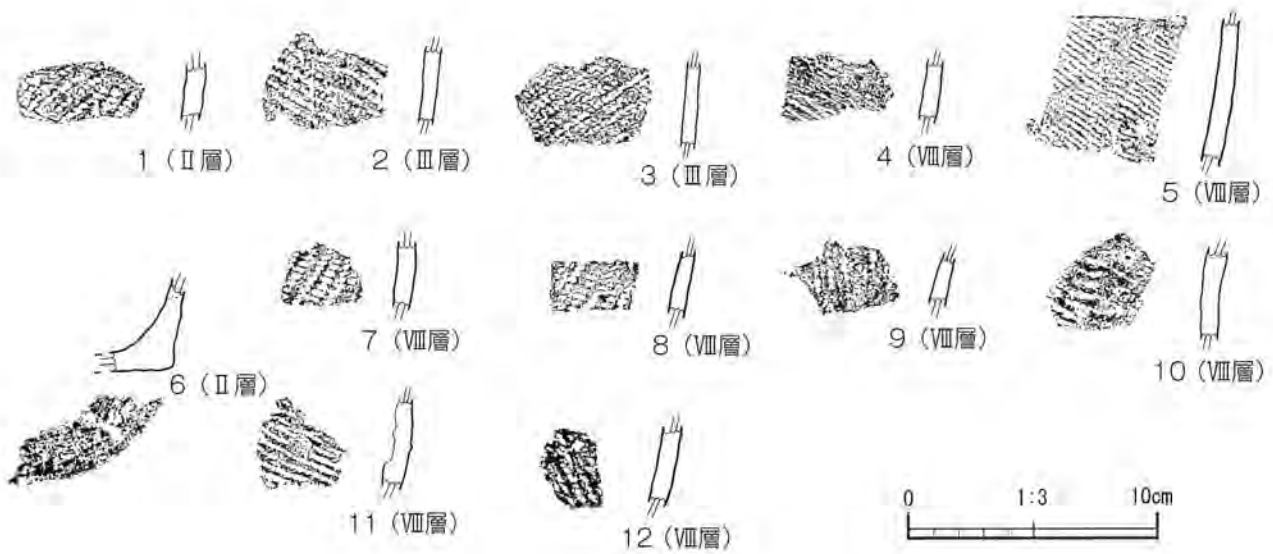
畝状遺構 焼土 土層観察表

層名	基本土	混入土	しまり・粘性・混入物
焼土・埋土	5YR3/2 暗赤褐色埴壤土	10YR2/1 黒色埴壤土 20%塊状	やや硬質、粘性ややあり
	7.5YR2/1 黒色埴壤土	7.5YR3/2 極暗褐色埴壤土 10%塊状	やや硬質、粘性ややあり



第9図 畝状遺構 平面図・断面図





第10図 遺構外出土遺物

第4節 遺構外出土遺物 (第10図、写真図版46)

遺構外出土遺物は、縄文土器12点、石器6点を図示した。第10図1～12は縄文土器である。第10図1は胴部破片で、基本土層II層から出土している。R L単節斜縄文で、外面の一部に煤の付着が観察される。第10図2は胴部破片で、基本土層III層から出土している。L R単節斜縄文で第10図1と同様に外面の一部に煤が付着している。第10図3は胴部破片で、基本土層III層から出土している。外面にはR L単節斜縄文が施文されている。第10図4は胴部破片で、基本土層VIII層から出土している。

磨滅のため不明瞭であるが撚糸文と考えられる。第10図5は胴部破片で、基本土層Ⅷ層から出土している。L無節縄文が斜位に施されている。第10図6は底部破片で、基本土層Ⅱ層から出土している。磨滅のため文様等は不明である。第10図7・8は胴部破片で、基本土層Ⅷ層から出土している。RL単節斜縄文が施文されている。第10図9は胴部破片で、基本土層Ⅷ層から出土している。不明瞭であるが、LR単節斜縄文が施文されている。第10図10～12は胴部破片で、基本土層Ⅷ層から出土している。3点ともLR単節斜縄文が施文されている。

第10図13～18は石器である。第10図13は無茎の石鏃で、基本土層Ⅱ層から出土している。先端部は欠損している。第10図14は平基の石鏃で、攪乱から出土している。やや磨滅している。第10図15は石鏃で、基本土層Ⅵ層から出土している。先端部は磨滅し、さらに基部欠損のため、形態は不明である。第10図16は石錐で、基本土層Ⅴ層から出土している。第10図17は石匙で、基本土層Ⅱ層から出土している。刃部の先端が欠損している。第10図18は磨製石斧で、攪乱から出土している。刃部は使用時によるものかは不明であるが割れが著しい。

第1表 縄文土器観察表

挿図番号	番号	出土遺構	層位	器種・部位	文様	器面調整	胎土	備考
10	1	遺構外	基本土層Ⅱ層	胴部	RL単節縄文	内面ナデ	砂粒	外面一部煤付着
10	2	遺構外	基本土層Ⅲ層	胴部	LR単節縄文	内面ナデ	砂粒	外面一部煤付着
10	3	遺構外	基本土層Ⅲ層	胴部	RL単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	4	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	撚糸文	内面ナデ	砂粒	
10	5	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	L無節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	6	遺構外	基本土層Ⅱ層	底部	外面ナデ	内面ナデ	砂粒	
10	7	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	RL単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	8	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	RL単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	9	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	LR単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	10	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	LR単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	11	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	LR単節縄文	内面ナデ	砂粒	
10	12	遺構外	基本土層Ⅷ層	胴部	LR単節縄文	内面ナデ	砂粒	

第2表 石器観察表

挿図番号	番号	出土地点	層位	器種	現存する規模 (cmまたはg)				備考
					最大長	最大幅	最大厚	重量	
第10図	13	Cトレンチ東区	基本土層Ⅱ層	石鏃	(2.3)	2.1	0.4	1.9	先端部欠損
第10図	14	調査区南部 遺構外	攪乱	石鏃	2.7	2.0	0.8	4.8	
第10図	15	調査区南部 遺構外	基本土層Ⅵ層	石鏃	3.0	1.0	0.5	1.5	
第10図	16	調査区中央部 畝跡周辺	基本土層Ⅴ層	石錐	(5.8)	1.9	0.9	8.9	
第10図	17	Bトレンチ 坪掘2	基本土層Ⅱ層	石匙	(4.6)	2.3	1.0	9.1	刃部欠損
第10図	18	Aトレンチ北区	攪乱	磨製石斧	8.1	3.7	2.0	99.7	

## 第5章 まとめ

今回の赤畑東遺跡の発掘調査は、平成24年4・5月に試掘調査を行い、遺構の検出された約215㎡の範囲において本調査を実施している。本調査の結果、竪穴住居跡1棟、ピット5基、畝状遺構が検出され、特に竪穴住居跡については所属年代を示す遺物の出土はみられなかったが、その形態などから中世の遺構と推測された。本章では市内では類例の少ない中世の竪穴建物跡について概観しまとめとしたい。なお、ここでは中世に属するとされる竪穴住居跡については高橋與右衛門(2003)等の論文・報告書に沿い「竪穴建物跡」と呼称しているが、本遺跡から検出された1号竪穴住居跡については、当初年代が不明であったことから発掘調査現場での呼称をそのまま用いている。

### (1) 赤畑東遺跡の竪穴住居跡について

赤畑東遺跡で検出された1号竪穴住居跡は調査区南部で確認されている。その概要をあらためてみると、平面形は方形で、規模は南北方向の辺3.22m、東西方向の辺3.62mを測る。南西の角には丸みを帯びた張出し部分が確認されている。ピットは床面の壁際に沿って計14基検出され、北・東・南壁では周溝と重複している。北壁において4基、東壁では3基、南壁では4基、西壁では4基確認され、平面形は不整な円形が多い。p3・4・8・9・10・11・13・14では柱痕跡が確認された。ちなみに、p14は住居跡床面の中央部で確認されている。さらに、床面中央部の東側からは焼土の分布が確認された。焼土の上面には層厚約5cmの炭化物や焼土塊の混入した層が堆積し、焼土面は硬くしまりがある。この他、幅は約10cm、深さは4cm～5cmを測る周溝が、北壁・東壁と南壁の一部で確認されている。本遺構からは所属時期を示すような遺物は確認されず、検出面において鉄滓と縄文土器の小片が出土しているのみである。

### (2) 宮古市内における中世の遺構・遺物について

次に、宮古市内における中世の竪穴建物跡について概観し、今回調査した赤畑東遺跡の遺構の位置付けについて考察したい。

まず、赤畑東遺跡に隣接している赤畑遺跡からは、竪穴住居跡が2棟検出されている。1号住居社は、平面形はやや不整な方形を呈し、南東部に張出しをもつ。1辺約3mで張出し部は1m×1.5mである。柱穴は住居跡の4隅にあるピットを含め計10基が確認され、壁周溝は張出し部と北西壁の一部分を除き全周する。床面には炉跡と思われる焼土が検出されている。遺物の出土はない。2号住居社は、平面形は方形で一辺約3mを測る。張出し部はみられず、壁周溝は全周する。柱穴は住居跡の4隅と各辺の中央に計8基確認されている。床面直上から鉄鏃1点、不明鉄製品が1点出土している。本遺跡同様、年代を特定する遺物の出土はなく、その構造や形態から中世と報告されている。

鉾ヶ崎地区に位置する熊野町I遺跡からは竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡1棟が検出されている。竪穴住居跡は隅丸方形を呈する本体部と不整な方形を呈する張り出し部からなり、規模は本体部東西3.7m、南北3.6m、張り出し部は東西1.85m、南北1.6mを測る。本体部の東・北・西壁には溝が巡り、柱穴を含むピットは14基を数える。床面南東部からは地床炉が2基検出されている。遺物は床面から天目茶碗と茶臼が出土し、柱穴内から鉄砲玉とされる鉛玉、埋土中からは青磁碗片と茶臼が出土している。これらの遺物から16世紀後半代の遺構とされ、掘立柱建物跡も同時期としている。

この他、近年では三陸縦貫道関係で調査された木戸井内IV遺跡からも同様の構造をもつ竪穴建物跡が2棟検出されている。

このように、各遺跡から検出された竪穴建物跡の形態や構造をみると、古代以降のカマドの構築はみられず、床面の4隅や壁際に構築される柱穴が特徴であり、床面中央においても柱穴が検出される場合がある。また、周溝や張出しを有する構造も特徴の1つである。

中世の竪穴建物跡をまとめた高橋與右衛門(2003)によると、中世以降の竪穴建物跡を形態の変異

に乏しい遺構としつつも、平面形によりⅠ類（方形）とⅡ類（長方形）に分類している。さらにそれぞれ炉跡を伴う例と伴わない例があるとしている。本遺跡で検出された1号竪穴住居跡は方形を呈するためⅠ類に該当し、床面には焼土が検出されており炉としての機能が想定される。また、高橋（2003）によると、中世を通して一貫して同様の形態・構造の竪穴建物跡を構築しており形態により時期差を導くことは難しいとしており、出土遺物の年代がその竪穴建物跡の年代を決定するという例が多いといえる。そのため、本遺跡のような遺物の出土がない場合には大まかに中世と捉えざるを得ない。

このように宮古市内における中世の竪穴建物跡について概観したが、古代や縄文時代の遺構・遺物数と比べても資料数の少なさは否めない。石碑や古文書などの文字資料が断片的ながら残存はしているが、未だ中世の様相が明らかになっているとは言い難いのが現状である。

なお、中世の遺構としては中世城館がよく知られている。市内では50箇所以上が確認されているが、このうち磯鶏館山遺跡、山口館跡、金浜館跡、千徳城遺跡群などで発掘調査が行われ、少しずつではあるが、その構造や年代などが明らかになってきている。

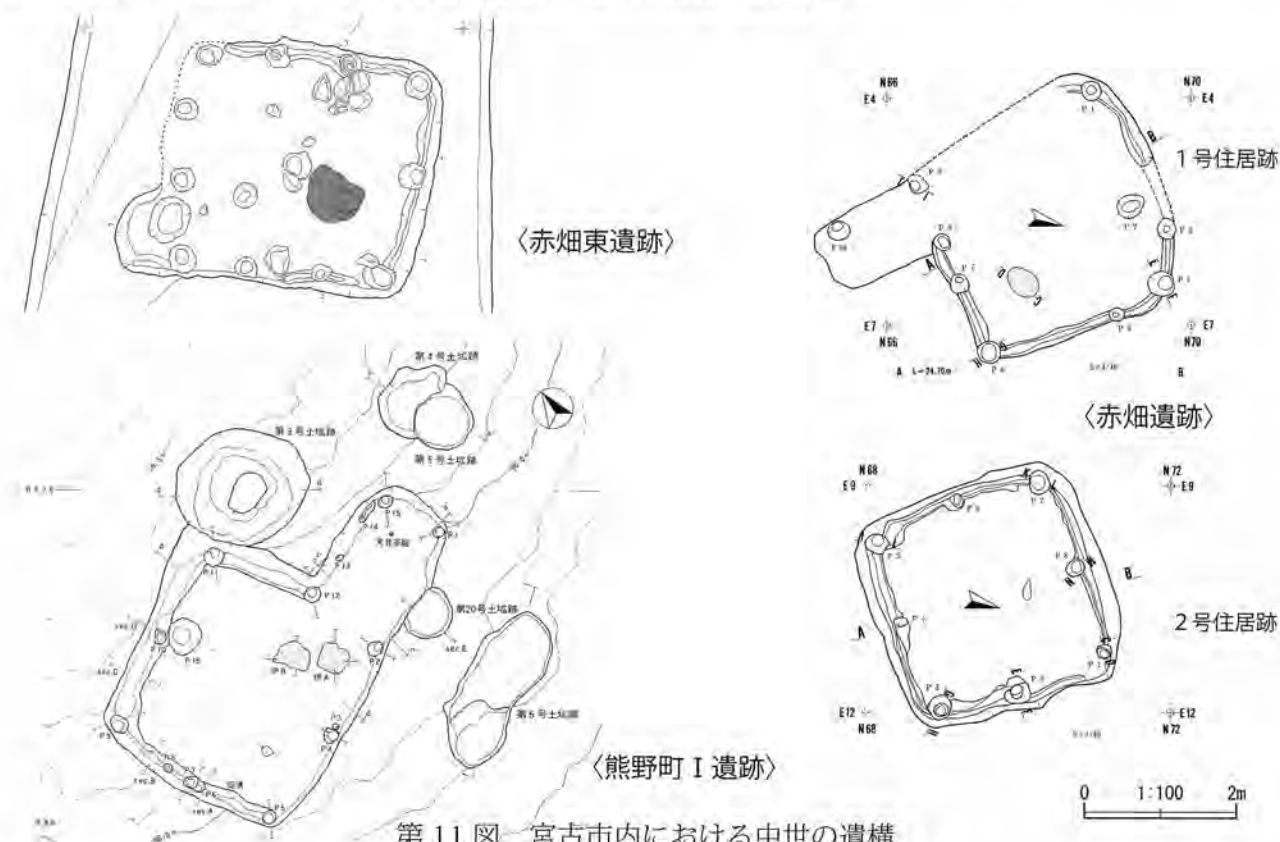
### (3) 総括

今回の赤畑東遺跡における発掘調査では類例の少ない中世の竪穴建物跡が検出された。資料の少ない宮古の中世の一端を知る貴重な遺構と考えられる。本遺跡の立地する山口川流域では縄文時代から古代、さらに近世の遺構が多数確認されており、継続的に人々の営みをみることが出来る地域と考えられる。

近年増加傾向にある復興事業に伴う発掘調査においても、赤前地区に位置する赤前Ⅰ牛子沢遺跡から中世と推測される竪穴住居跡が1棟検出されている。このような資料の増加によりさらに市内の中世の様相が明らかになることが期待されよう。

#### <主な引用・参考文献>

- 高橋與右衛門 1991 「掘立柱建物跡の間尺とその時代性」『紀要Ⅸ』(剏岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
- 高橋與右衛門 2003 「中世の建物跡」『戦国時代の考古学』高志書院
- 宮古市教委 2007 『遺跡から見る宮古の中世—閉伊川流域の城館跡—』



# 写真図版





1. 赤畑東遺跡 航空写真（南から）



2. 赤畑東遺跡 遠景（南から）



3. 試掘トレンチ 掘り下げ状況（南から）



4. 本調査 完掘状況（北から）





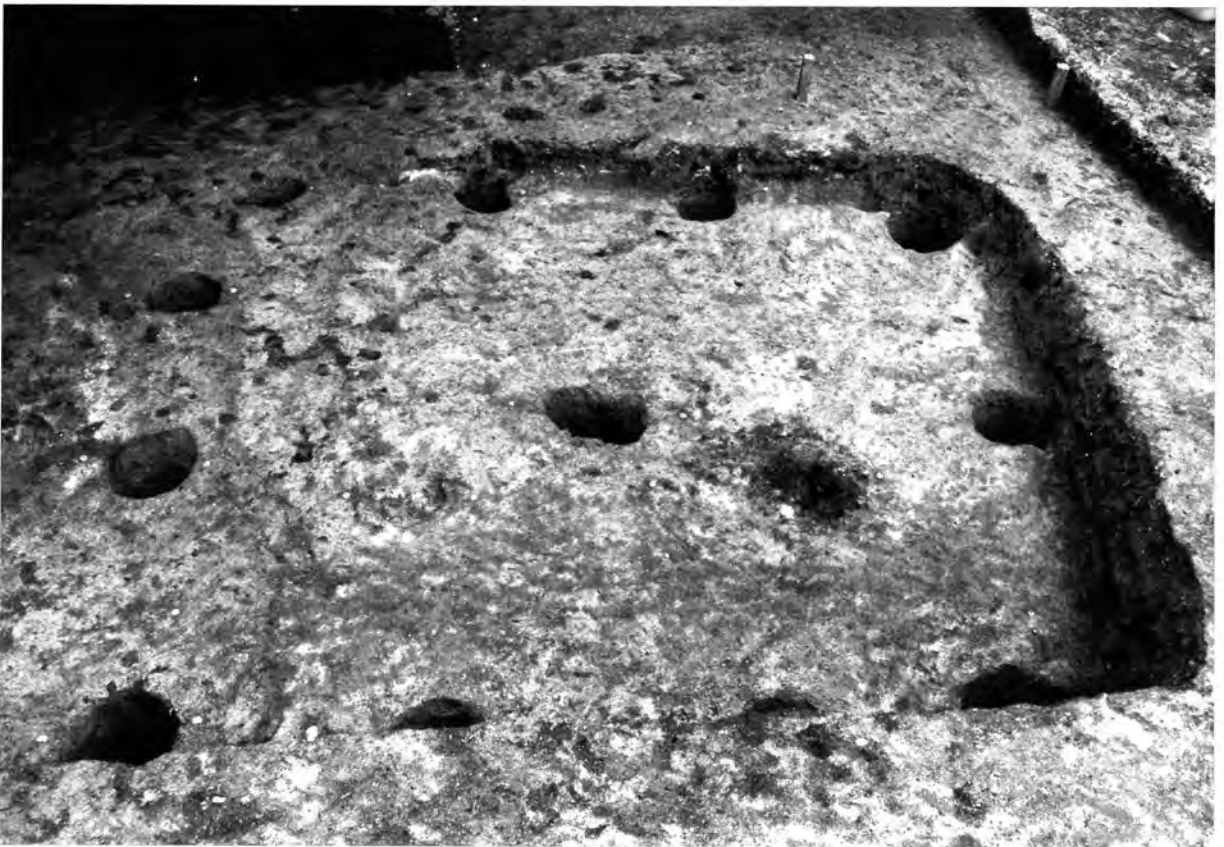
5. 本調査 完掘状況（南から）



6. 1号竖穴住居跡 検出状況（東から）



7. 1号竖穴住居跡 完掘状況（東から）



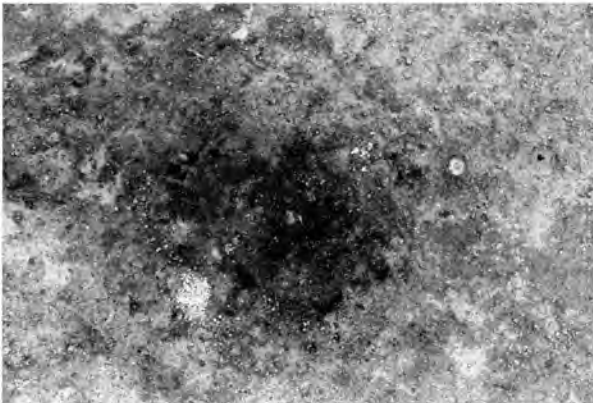
8. 1号竖穴住居跡 完掘状況（南から）



9. 1号竖穴住居跡 土層堆積状況（南から）



10. 1号竖穴住居跡 礫出土状況（南西から）



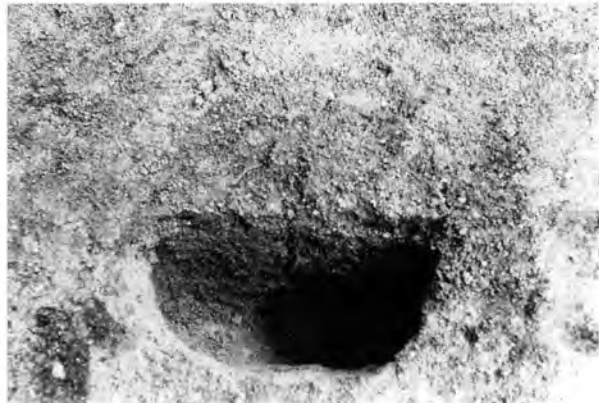
11. 1号竖穴住居跡 焼土（南から）



12. 1号竖穴住居跡 p 1（南から）



13. 1号竖穴住居跡 p 2（南から）



14. 1号竖穴住居跡 p 3（南から）



15. 1号竖穴住居跡 p 4（南から）



16. 1号竖穴住居跡 p 5（南から）



17. 1号竪穴住居跡 p 6 (南から)



18. 1号竪穴住居跡 p 7 (北から)



19. 1号竪穴住居跡 p 8 (北から)



20. 1号竪穴住居跡 p 9 (北から)



21. 1号竪穴住居跡 p10 (北から)



22. 1号竪穴住居跡 p11 (南から)



23. 1号竪穴住居跡 p12 (南から)



24. 1号竪穴住居跡 p13 (南から)



25. 1号竖穴住居跡 p14 (南から)



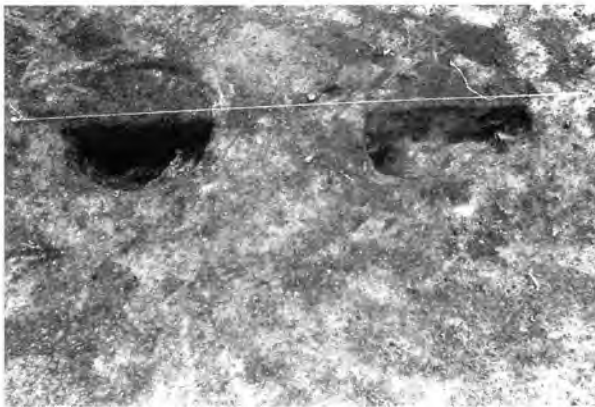
26. P1 堆積状況 (南から)



27. P2 堆積状況 (東から)



28. P3 堆積状況 (東から)



29. P4・P5 堆積状況 (南から)



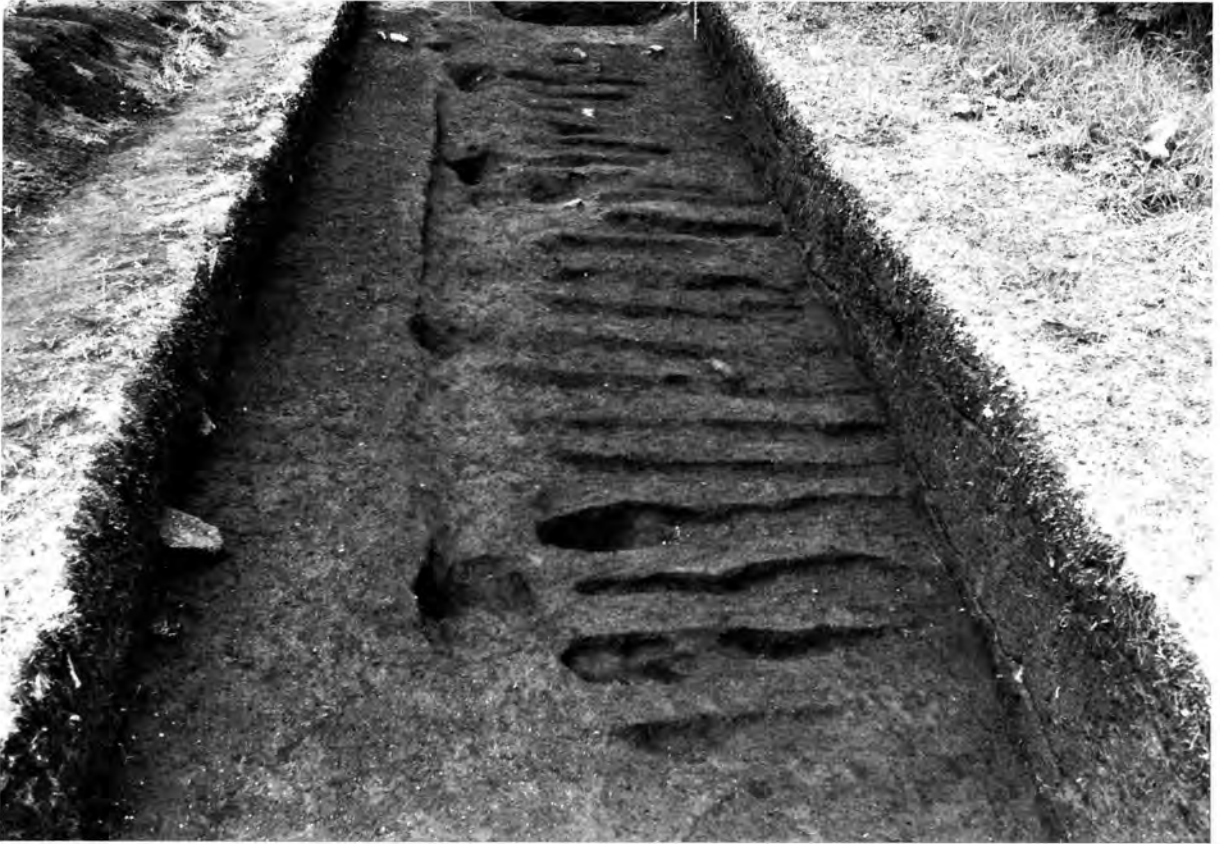
30. P1~3 検出状況 (南西から)



31. 畝状遺構 検出状況 (北から)



32. 畝状遺構 土層堆積状況 (北から)



33. 畝状遺構 完掘状況 (北から)



34. 試掘トレンチ 土層堆積状況 (東から)



35. 試掘トレンチ 土層堆積状況 (南西から)



36. 試掘トレンチ 土層堆積状況 (南東から)



37. 試掘トレンチ 土層堆積状況 (南東から)



38. 試掘トレンチ 土層堆積状況（南東から）



39. 試掘トレンチ 土層堆積状況（南東から）



40. 試掘トレンチ 土層堆積状況（東から）



41. 試掘トレンチ 土層堆積状況（南東から）



42. 試掘トレンチ 土層堆積状況（南東から）



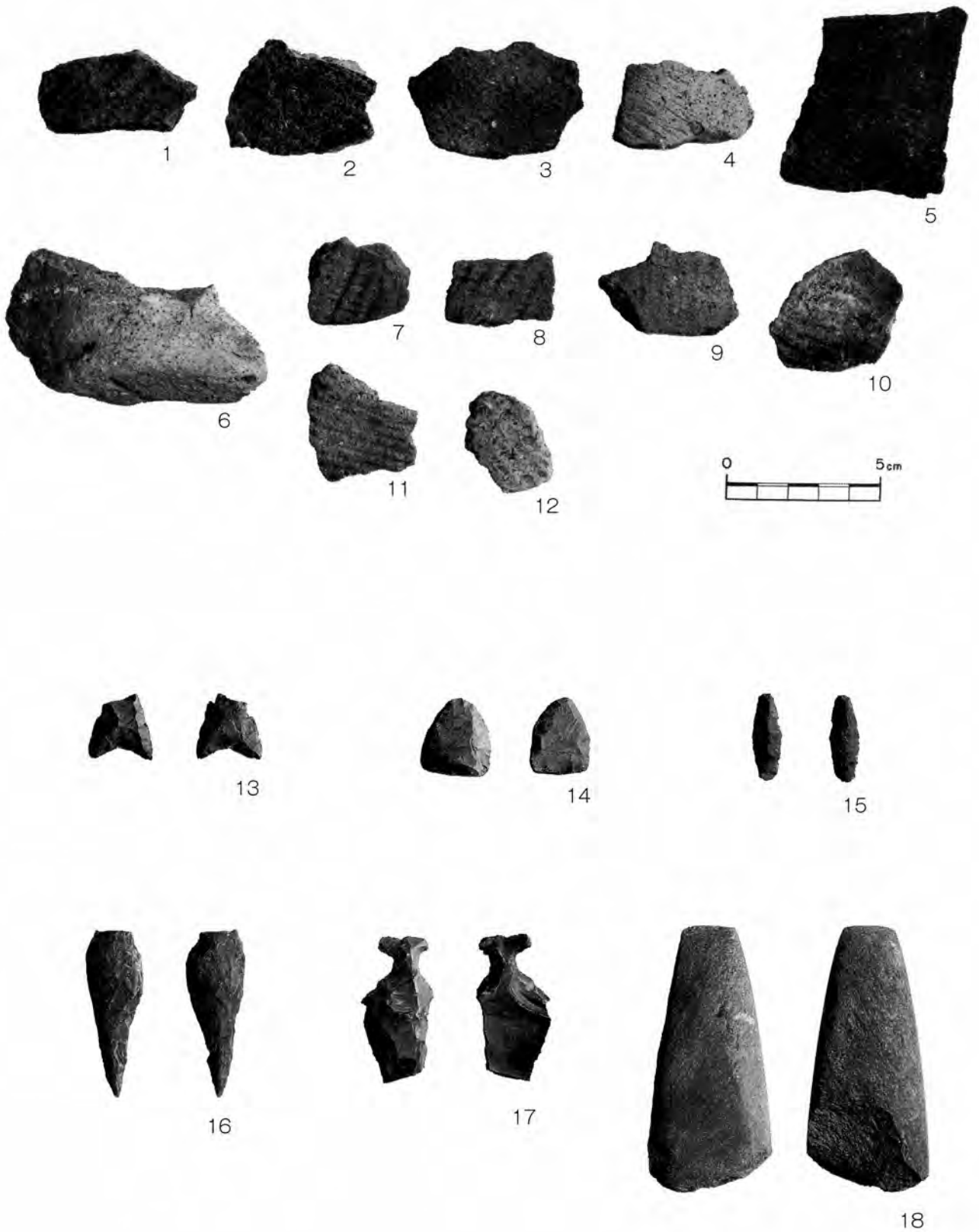
43. 試掘トレンチ 土層堆積状況（南東から）



44. 試掘トレンチ 土層堆積状況（東から）



45. 試掘トレンチ 土層堆積状況（東から）



※石器 (2:1)

46. 遺構外出土遺物 (縄文土器・石器)



## 報告書抄録

ふりなが	あかばたけひがし							
書名	赤畑東遺跡							
副書名	山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	82							
編著者名	長谷川真、前川友宏							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-68-9122 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	2014/3/12							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯" " (世界測地系)	東経" " (世界測地系)	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あかばたけひがし 赤畑東遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 やまぐち ちようめ 山口5丁目	03202	LG23-1295	39° 39' 19"	141° 55' 58"	240413 ~ 240525 240611 ~ 240621	215㎡	山口病院 新棟建設 工事に伴 う本調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
赤畑東遺跡	散布地	縄文時代・近世	中世の竪穴住居跡1棟 ピット5基 畝状遺構		縄文土器・石器・鉄滓		宮古市内で類例の 少ない中世の竪穴 建物跡を検出	

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書 1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書 2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書 3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書 4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図—昭和 60 年度版—』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ—昭和 61 年度発掘調査概報—』
- 14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)』
- 15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ—昭和 62 年度発掘調査概報—』
- 16 1989 『千鶴遺跡—昭和 62 年度発掘調査報告書—』
- 17 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡—第 1 ～ 7 次発掘調査報告書—』
- 18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ—昭和 63 年度発掘調査概報—』
- 19 1989 『高根遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 20 1989 『狐崎Ⅱ遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 21 1989 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡—昭和 63 年度調査報告書—』
- 22 1990 『狐崎遺跡—平成元年度発掘調査報告書—』
- 23 1990 『崎山遺跡群Ⅳ—平成元年度発掘調査概報—』
- 24 1990 『磯鶏館山遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚—平成元年度発掘調査報告書—』
- 26 1991 『崎山遺跡群Ⅴ—平成 2 年度発掘調査概報—』
- 27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群—平成元年・2 年度発掘調査報告書—』
- 28 1990 『熊野町遺跡—昭和 63 年度発掘調査報告書—』
- 29 1991 『弘川Ⅰ遺跡—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和 58 年度)・大付遺跡(平成 2 年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群—第 1 次調査報告書—』
- 32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 33 1992 『高根遺跡—平成 3 年度発掘調査報告書—』
- 34 1992 『輕沢遺跡群—平成 2 年度発掘調査報告書—』
- 35 1992 『大付遺跡—平成 3 年度発掘調査報告書—』
- 36 1992 『細越Ⅰ遺跡・茅野Ⅱ遺跡—農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 37 1992 『崎山遺跡群Ⅵ—平成 3 年度発掘調査概報—』
- 38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 39 1993 『早稲橋Ⅱ遺跡—第 1 次・第 2 次発掘調査報告書—』
- 40 1993 『崎山遺跡群Ⅶ—平成 4 年度発掘調査概報—』
- 41 1994 『崎山遺跡群Ⅷ—平成 5 年度発掘調査概報—』
- 42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 43 1995 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚—範囲確認調査報告書—』
- 45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡—市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』
- 46 1995 『花原市遺跡—平成 4 年度発掘調査報告書—』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡—平成 5 年・6 年度発掘調査報告書—』
- 49 1997 『花原市遺跡—平成 8 年度発掘調査報告書—』
- 50 1997 『白石遺跡—第 6 次発掘調査報告書—』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 52 1998 『藤畑遺跡—平成 9 年度発掘調査報告書—』
- 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡—水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 54 1999 『千鶴Ⅳ遺跡—水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 55 1999 『崎山貝塚—第 12 次・13 次内容確認調査概報—』
- 56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡—特別高压送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 57 2002 『山口館跡—北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 58 2002 『沢Ⅱ大上遺跡—市内遺跡発掘調査報告書 2—』
- 59 2003 『大沢Ⅱ遺跡—東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書—』
- 60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡、沼里遺跡—市内遺跡発掘調査報告書 3—』
- 61 2003 『早稲橋Ⅱ遺跡第 6 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 4—』
- 62 2003 『下在家Ⅰ遺跡—平成 14 年度発掘調査報告書—』
- 63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡—市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書—』
- 64 2005 『弘川館跡—瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書—』
- 65 2006 『高浜Ⅵ地神遺跡—高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書—』
- 66 2006 『崎山貝塚第 20 次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第 7 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 5—』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡—市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書—』
- 68 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡—宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書—』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査—市内遺跡発掘調査報告書 6—』
- 70 2007 『山口館跡—市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書—』
- 71 2007 『近内館跡—宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書—』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第 11 次調査—市内遺跡発掘調査報告書 7—』
- 73 2007 『弘川館跡第 2 次調査—宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書—』
- 74 2008 『荷竹日向Ⅳ遺跡—市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書—』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書 5』
- 76 2009 『崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器類)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書 6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書 7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群—第 2 次発掘調査報告書—』
- 80 2014 『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡—市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書—』
- 81 2014 『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡—市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書—』

---

宮古市埋蔵文化財調査報告書 82

## 赤畑東遺跡

—山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書—

印刷・発行 平成 26 (2014) 3 月  
発 行 宮 古 市 教 育 委 員 会  
〒 028-2101 岩手県宮古市茂市 2 - 112 - 1  
TEL 0193 - 68 - 9122  
印 刷 花 坂 印 刷 工 業 株 式 会 社  
〒 027-0081 岩手県宮古市新川町 1 - 2  
TEL 0193 - 62 - 3125  
FAX 0193 - 64 - 0212

---





